北海道札幌大學内

八田三郎殿

恵存

東京都下四谷雲所一八

修ゝ木方

井手三郎

相変出海し候ても尚厳寒なるべしと立状為
去十六入都猶伺寄候上海より帰ると今夜留京三週
し帰宅されば大山帰りに同出発かりし結果矢折れ
ましたる頃る慎為去ドーセ欧信し貴さし倒る運命なら
早きに如かず日子後に陽栖の足と求めて出先者の自供の
我と存る未日中何こ後陽こ立帰り手紙子一有の所々夜
多分相談し機会こ辛と存し頃迄慎に存る 二月廿五
アデレーの義亀河
秋十月廿日 嫁他の由
彼ノ後去なきは家賃の成り

八田三郎様

廿年三月

九州厚図